

松居 竜五

(まついりゅうご)

略 歴

龍谷大学国際学部教授。南方熊楠顕彰会理事。日本国際文化学会常任理事。東京大学大学院総合文化研究科博士課程中退。博士(学術)。著書に、『南方熊楠一切智の夢』(朝日新聞社、一九九一年／小泉八雲奨励賞)、『南方熊楠の森』(共編共著、方丈堂出版、二〇〇五年)ほか。訳書に、『南方熊楠英文論考』(ネイチャー誌篇)、『南方熊楠英文論考』(ノーツアンドドクエリーズ)誌篇』(共訳、集英社、二〇〇五年、二〇一四年)。



〈受賞のことば〉

修士論文を書いたばかりの頃、和歌山県田辺市の南方熊楠旧邸を初めて訪れ、長女の文枝さんに熊楠の書庫を見せていただいたことは、私の研究の出発点になりました。今回の著作は、それから二十五年以上、関連の研究者とおこなってきた資料調査を基盤にしたものです。長い期間にわたる研究を、このような形で評価していただいたことを大変嬉しく思います。

南方熊楠については、伝説的な逸話や、超人的な活躍がよくとりあげられますが、論文では常に先行文献を明記し、実証的な研究方法を重んじた学者です。若き日の和漢書の筆写に始まり、進化論から得た啓示、そして同時代の人類学の受容と、熊楠はさまざまな先人の仕事を丹念に読み込み、自分の血肉としています。その上で、熊楠は近代科学の限界を認識し、それを乗り越えるための独創的な学問構想を作り上げようとしてきました。

そうした熊楠の思索を真に理解するためには、遺族の手によって大切に保存された一次資料を分析し、熊楠と同じ本を読みながらその学問構想をなぞるといふ、こちら側の不断の努力が必要だと考えています。今後は国内だけでなく海外の研究者とも問題意識を共有して、この近代日本最大の知識人に対する研究を、さらに展開していきたいと思っています。